

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成26年9月22日 NO.41 (141)



タマゴダケ



オー君 「うわあー、きれいなキノコだ。」

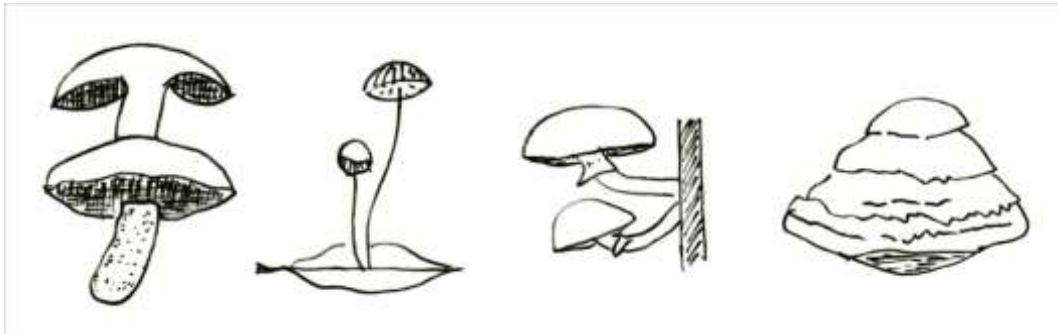
花ちゃん 「このキノコは、始めのようすがタマゴみたいなので、タマゴダケというのよ。」

オー君 「へえー、そうなんだ。秋といえばたキノコの季節だけど、ところで、キノコって何だろう。植物みたいだけど、そうじゃないみたいだし・・・。」

花ちゃん 「そうね。わたしもよくわからないわ。モンタ博士！キノコって、いったいどういうものなんですか。」

モンタ博士 「そうだね、かんたんになると、キノコは、カビの仲間で胞子というものでふえるんだよ。」

オー君 「胞子？なんですか？それは？」



モンタ博士「かんたんというと、木や草のタネと同じようなものかな。『カビの花』とも言
たらわかるかな。」

オー君 「ふーん。カビの花か・・・そうなんだ。わかったような・・・わかんないよ
うな・・・。それで、モンタ博士！キノコって何のためにあるの。」

モンタ博士「大きくわけて2つの役目があるんだよ。」

花ちゃん 「2つの役目？どんな役目なんですか。」

モンタ博士「まず、1つ目は、植物や動物を分解して、土にもどす役目があるんだよ。
『森のおそうじやさん』と言ったらわかるかな。」

オー君 「そうか、ぼく、枯れた木にキノコがついているの見たことあるもんな。それ
に、落ち葉からもキノコが生えているの見たことあるよ。」

花ちゃん 「モンタ博士！2つ目の役目って、何ですか。」

モンタ博士「もう1つは、ちょっと説明が難しくなるけど、キノコと植物が、お互いに養分
や水分をやりとりして、助け合いながら生活するためなんだ。こういうのを
むずかしい言葉で外生菌根というんだ。キノコは、かわいた土から水分やミ
ネラルなどを吸収して、植物が大きくなるのを助けるんだ。そして、その
かわりに、キノコは、植物が光合成でたくわえた栄養をわけてもらうのさ。
こういうのを、難しい言葉で共生というんだよ。わかったかな。」

オー君 「へえー、すごいんですねキノコって。それで、ほとんどお話しはわからなか
ったけど・・・。まあいいや。ねえ、花ちゃん！これからは、キノコをたく
さん見つけよう、調べよう、お勉強しよう！」

花ちゃん 「そうしましょう！」

